



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

北鎌倉だより

2003年3月 NO 8



台峯の森で羽を休めるシジュウカラ

目次

- 第4回北鎌倉台峯トラストの集い (02・12・1)
- 活動・会計報告
- 北鎌倉文学散歩
- 談話室 (会員欄)
- 伝言板

◎車座で日英の景観問題をフリートーク

— 第4回北鎌倉台峯トラストの集い (02・12・1) —

北鎌倉の景観を後世に伝える基金(鎌倉台峯トラスト、なだ いなだ理事長)は2002年12月1日、円覚寺書院で会員との交流を図ることを目的とした「第4回北鎌倉台峯トラストの集い」を開催した。

▽参加会員は過去最多

集いには基金の理事、正会員、監事、会員約50人が参加した。鎌倉台峯トラストが保全運動を展開している台峯とともに「鎌倉三大緑地」となっている広町緑地の全面保全が決まったこともあってか、会員の参加者はこれまでで一番多かった。

冒頭、なだ理事長は「問題は残っているものの、広町緑地の保全が決まった。広町に劣らず、台峯も重要な緑地だ。今後も保全運動を続けていきたい。緑地保全の重要性については、マスコミも含めて理解が足りない。われわれの運動に対して、会員の皆さんの目から見たら動きが、鈍いと映るかもしれない。率直な意見を出していただけるとありがたい」とあいさつ。続いて各担当理事が、活動報告や会計報告を行った。

▽英国では信ずるものに財産を残す

この後、質疑応答、休憩を挟んで、フリートークが開催された。フリートークはなださんを囲み、車座で行われた。「同じ視線で、語り合おう」というのが“なださん流”。車座はまさにその実践だ。

英国のナショナル・トラスト運動に詳しい石黒ひで副理事長が、会員からの質問で答える形で「英国人は働ける子供より、信ずるものに財産を残そうという意識がある。また、ロンドンでは家の色一つ変えることさえ、周辺の住民の同意がなければ難しい。緑地を破壊して宅地開発するのは至難の業だ。これはドイツでも同じことがいえる」と英国のトラスト運動や欧州における景観に対する日本との意識の違いを指摘した。

フリートークは景観問題から自然の持つ「免疫力」や台峯に生息し、かつ昭和天皇が研究の対象にされた「ヨシノボリ」など、幅広いテーマに及んだ。



車座でフリートーク
(円覚寺書院)

活 動 報 告 (2002年7月～)

1. 「なだいなだと北鎌倉周辺をあるく」
毎月第三日曜日に定期開催・参加者は毎回40人を超えています。
2. 第二回講演&チャリティーコンサート
「リンボウ先生が語り青木由有子が歌う 台峯の命の叫び」
を6/2北鎌倉女子学園において主催、約500名の会員・市民の皆さんに集まっていただきました。
3. 鎌倉市議会議員に「市民参加型ミニ市場公募債」アンケートを実施(10/1)しました。(詳細は後記)
4. 円覚寺前での街頭募金と入会案内のチラシ配布を春期(2回)につづき9/15と10/20に実施しました。
5. 台峯緑地内の赤道整備
台峯緑地(28.7ヘクタール)には赤道と呼ばれる市道が縦横に張り巡らされています。その外の土地は(株)野村不動産と地元地権者の所有地です。私たちの定例山(台峯)歩きはこの市道(赤道)から外れないように注意を払っていますが毎回歩いていると、赤道が大雨で崩れたり、倒木によりふさがれたりして荒れている状況がわかります。そこで昨年1月鎌倉市に我々の出来る範囲で手作業での赤道の整備」をさせて欲しいとお願いしました。そして8/17、10/19、11/16、1/18の土曜日にその整備を行いました。むやみな整備は生態系を壊すことにもなる為、専門家の指示を仰ぎ慎重に行っています。参加者は毎回10人程度です。普段、この種の作業になれていない方がほとんどなので2時間の労働はかなりきつようですが、終了後の充実感はなんともいえないと好評です。参加してみようかと思われる方はどうぞ事務局までお知らせ願います。

6. 機関誌「北鎌倉の風」(4号)発刊 2003年3月

「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」の機関誌です。今回は“後世”つまり次世代を担う子どもたちを意識した編集をめざしました。ぜひ、ご購入ください。

7. 第4回台峯トラストの集い(12/1)

円覚寺書院にて約50名の皆さんに集まっていただきました。後半のなだ先生を囲んでのフリートークは、様々な話題に広がりました。

□ 市民参加型ミニ市場公募債について鎌倉市議会議員にアンケート実施

すでに前号でお知らせしましたが、昨年4月、石渡市長に市民参加型ミニ公募債(緑地保全に使われることから私たちは“みどり債”と呼びます)を検討するよう依頼しました。その後6月にも発行促進の提案を行いました。この提案は事前に全国ではじめてこの制度を導入した群馬県庁、また神奈川県理財課、総務省自治財政局にも出向き、入念な調査を実施した結果に基づき、自信を持って提案したものでした。この提案を受け行政より市役所内にプロジェクトチームを作り検討するとの回答を得ました。この行政の回答に基づき、私たちは、私たちが提案した“みどり債”の実現を期待しましたが、その後、経過報告も無い為、この提案を市会議員の方々にも知ってもらい、行政に対し一緒に働き掛けて欲しいとの思いからアンケート調査に踏み切りました。調査期間中に広町の鎌倉市による買取が報道されたこともあり回収率は64.2%に達しました。アンケートの結果はつぎのとおりです。

◎市民参加型ミニ公募債(みどり債)アンケート結果

□調査期間 2002年10月1日～25日

□アンケート配布先

民政クラブ(大村、中村、渋谷、古屋、助川、和田) 日本共産党(*吉岡*赤松*小田嶋*児島*清水) 神奈川ネットワーク(*仙田*三輪*森川*前田) 公明党(*福岡*大石*藤田) 無所属(*松尾、*岡田*伊藤玲子、松中、千)

[回答者は*印で表示]

議員総数28名中回答者数18名(回答率64.2%)

□アンケートの内容とご回答

Q1 緑地保全は現在の施策で充分ですか

回答 共産党：緑地保全にかかわる諸課題で克服、前進させるべき点が多々ある 公明党：十分とはいえないが厳しい財政下では一定の努力が認められる ネット：必ずしも十分とはいえない 白倉：前向きな取り組みをしている 松尾：緑地保全は市民投票条例によって解決すべき 伊東：一定の評価はするも不十分 高橋：傾斜緑地、古都法の規制地買取等不十分 伊藤：不十分

Q2 市民公募債の提案をご存知ですか

回答 共産党：しっていた 公明党：(当基金からの)資料で知った ネット：知っている 岡田：知っている 松尾：知らなかった 伊東：知らなかった 高橋：知らなかった 伊藤：しっていた 白倉：知らなかった

Q3 「市民参加型ミニ公募債」について、どの程度理解されていますか

回答 共産党：新聞報道によりある程度しっていた 公明党：報道等で知っている ネット：雑誌等の紹介記事で読んでいる 岡田：友人との会話の中である程度知っている 松尾：聞いたことはある 伊東：マスコミ報道で聞いたことはある 高橋：聞いたことはない 伊藤：日経新聞である程度知っている

Q4 ミニ公募債についてご意見は

回答 共産党：緑地保全は市民が熱望しているものであり市民の共感が得られる。市民団体トラストと連動させて取り組むべき 公明党：市民参加のあり方をより広くとらえたものとして高く評価する。市民の協力が大前提 ネット：市民参加の手法として検討に値する。長期債、無利子にする等も考慮すべき 岡田：返済期間が短く市債のほうが有利のことで断念 松尾：基本的にとてもすばらしいと思う
伊東：市債との比較検討が必要 高橋：シビックトラスト運動こそがベスト 伊藤：ミニ公募債については賛成だが返済のめどの検討が必要 白倉：緑地のみならず財源確保の方法として検討すべき

Q5 ミニ公募債の発行に賛成ですか

回答 共産党：市民の熱意と善意による公募債発行は必ず成功する 公明党：償還財源の計画的返済等市民の信頼を裏切らぬことを前提に賛成 ネット：いくつか検討課題はあるが賛成 岡田：経済的理由から賛成しかねる 松尾：更なる検討が必要 伊東：現時点では判断しかねる 高橋：市民主導でできないか、これ以上の借金は無理 伊藤：賛成だが返済のめどが前提 白倉：目的を明確にした上で検討に値する*すべて順不同敬称略
～ご回答いただいた市議会議員の皆様には有り難うございました。

■ 2003年2月19日の朝日新聞(湘南版)の報道によると、鎌倉市は広町緑地買取の財源として、市民参加型ミニ公募債(20億円)を今秋までに発行することを発表しました。

当基金が、提案していた市民参加型ミニ公募債(みどり債)は、先ずは広町緑地買取の財源確保を目的に実現されることとなりました。これが、広町緑地に続く台峯保全の動きにも弾みがつくことを期待する次第です。

会計報告

14年4月1日から10月31日迄

特定非営利活動法人
北鎌倉の景観を後世に伝える基金

NO.1/2

(単位:円)

科目	14年度予算	前期より増減	14/4-14/10	予算残高	摘要	
収入	入会金	10,000		15,000	-5,000	4月より正会員3名入会
	個人会費	800,000		572,500	227,500	本人466名家族170名合計636名
	団体会費	15,000		12,000	3,000	今年度入金4件
	セミナー収入	700,000		902,000	-202,000	チャリティ切符売上予算より収入が多い
	民間助成金	300,000		15,762	284,238	店舗募金箱
	機関誌収入	170,000		37,800	132,200	機関誌「北鎌倉の風」2号43冊、3号40冊
	寄付金	1,200,000		448,198	751,802	今年度入金39件合計860件
	街頭募金	60,000		66,137	-6,137	北鎌倉駅前にて4回 その他1回
	受取利息	5,000		3,118	1,882	定期預金、普通預金利息
合計	2,450,000		1,485,015	964,985		
支出	仮払金			21,300	-21,300	
	(緑地の保全・管理事業)					
	整備作業費	100,000		26,565	73,435	剪定鉢(10)鋤鎌(10)
	諸謝金	50,000			50,000	
	小計	150,000		26,565	123,435	
	(普及・研修事業費)					
	通信費	150,000		70,035	79,965	会員宛会報その他送付2回
	旅費交通費	60,000		53,000	7,000	チャリティ出演者交通費
	会議費			17,900	-17,900	チャリティ食事代
	印刷製本費	10,000		11,362	-1,362	会報1回及び山歩きピラ7回
	諸謝金	15,000		125,300	-110,300	チャリティ関係者謝礼
	事務消耗品費	50,000		10,338	39,662	チャリティ、山歩きピラ用紙
	委託費	300,000		210,000	90,000	チャリティ音響費
	賃借料	36,000		23,000	13,000	山ノ内公会堂10月迄使用料
	損害保険料	8,800			8,800	山歩き傷害保険料
	雑費	14,000		21,117	-7,117	チャリティお花代他
	小計	643,800		542,052	101,748	
	(広報・出版事業費)					
	通信費	70,000		22,180	47,810	ホームページ回線使用料7ヶ月分
	印刷製本費	550,000			550,000	機関誌4号15年3月までに発行予定
	編集費	20,000		1,848	18,152	機関誌発行の為のフィルム代
	小計	640,000		24,038	615,962	
	(交流・協力事業費)					
	負担金	50,000		50,000	0	日本トラスト協会
	研修費	15,000		5,000	10,000	日本トラスト協会
	雑費、その他	125,000		315	124,685	振込料
	小計	190,000		55,315	134,685	
	(管理費)					
	旅費交通費	50,000		14,920	35,080	群馬県庁他
	通信費	60,000		55,905	4,095	振込料、会費納入依頼、会員証送付
事務消耗品費	64,000		17,879	46,121	コピー代、用紙代	
賃借料	36,000		21,000	15,000	山ノ内公会堂10月迄	
雑費	20,000		27,692	-7,692	登記料他	
その他	50,000			50,000		
小計	280,000		137,396	142,604		
合計	1,903,800		806,666	1,097,134		

科目	14年度予算	前期より繰越	14/4-14/10	予算残高	摘要
保有資産	現金	0	46,901		
	当座預金	387,278	1,052,119		郵貯
	普通預金	520,224	400,916		東三B ¥370,303、郵貯 ¥30,613
	定期預金	10,228,187	10,901,602		東三B ¥1,295,167、郵貯 ¥9,606,535
			11,135,689	12,401,538	

注記:	繰積立金	¥10,901,602
	正味財産	¥12,399,538

会費納入時期変更のお知らせとお願い

先回、会報7号において会費納入時期の変更についてお知らせいたしました
が、説明不十分な点がございましたので、あらためてご案内差し上げます。

従来、会員の皆様、個々のご入会月を基準に、年会費を納入いただいで
いましたが、昨年より、皆様のご入会時期に応じて、前・後期、二期に分
けて年会費を納入いただくこととなりました。あらためて次のとおりご案
内差し上げますので、ご理解の程、お願い申し上げます。

- 前期＝4月から9月末日までにご入会いただいた皆様には、毎年、3 月末
迄に年会費納入のお願いをご案内差し上げます。
- 後期＝10 月から3月末日までにご入会いただいた皆様には、毎年、9月末
迄に年会費納入のお願いをご案内差し上げます。

すでに後期ご入会の会員の皆様には、ご協力いただいでいますが、前期
ご入会の皆様には平成15年3月末日迄にご案内差し上げますので、ご協
力の程、宜しくお願い申し上げます。

帰源院今昔



理事 和泉 あき
(相模女子大学名誉教授)

NHK に「金曜時代劇」という番組があります。しばらく前、宮尾登美子原作「蔵」というドラマが放映されていました。まじめに見ていたわけではないのですが、ある晩、はじめの紹介に目をむきました。「昭和8年」とあったのです。「いくら何でも昭和八年が時代劇ということはないでしょ、私にとっては同時代ですよ」とつぶやきながら、そういえば思い出されることがありました。

もう四十年も前のことになりますが、当時、稲村ヶ崎にお住まいだった小牧近江氏を円覚寺帰源院にお招きして、お話をうかがったことがありました。小牧氏は、少年時代にフランスへ渡り、滞在中、ロマン・ロランに傾倒し、アンリ・バルビュスの「クラルテ運動」に参加、帰国後、日本最初の反戦平和雑誌「種蒔く人」を創刊された方です。当時すでにご年配でしたので、お住まいから比較的近い帰源院において頂いたのですが、もちろん、帰源院が夏目漱石ゆかりの所、同じ円覚寺塔頭の松嶺院は「種蒔く人」の後援者でもあった有島武郎が「或る女」を執筆した所というのはこちらの頭にあつてのことでした。詳しい標示が円覚寺石段下にありますが、あらゆる案内書に載っていますので、今さら申しあげるまでもありません。

小牧氏は座談の楽しい洒落な老紳士でしたが、こんなお話もありました。「近衛って男はね、会議が終わると必ず夜のパリに遊びに出ちまうんだよ。」また、「波多野秋子ってのはハットするほど美人で、たしかに妖艶な女だったな」会議とはヴェルサイユで開かれた第一次世界大戦の講和会議のこと、日本側首席全権は西園寺公望、近衛文麿はメンバーの一人で、小牧氏は日本大使館の囑託として全権団の世話をしておられたのでした。波多野秋子は有島とともに軽井沢で自死した女性です。聞いている私たちにとっては、いずれも歴史の、あるいは文学史の知識だったので、それをついで、三日前のことのように話されるのには、口をあめぐりという状態だったわけでした。

今の若い人と、当時の私たちが重なって、時の流れというものを考えてしまいました。円覚寺に限らず、鎌倉ほど文学史との関わりが深い町はほかにはないでしょう。縁あってここに住む私たちは、遠い、また近い過去の歴史と、それを育くんだ場を大切にしたいと思ったことでした。

【談話室】

「台峯(だいみね)子ども風土記」編集雑感

榎本晶夫 (正会員)

□「山ノ内」が「台峯(だいみね)」に

広報担当理事の野口さんから、『北鎌倉の風』(機関紙第4号)を「一緒に作りませんか？」と声を掛けていただいたのは、昨年夏の暑い盛りの頃であった。下手の横好きだが、トラストの機関誌のお手伝いができるということが、うれしく「わかりました。よろしくお願ひします」とこたえた。いただいた“お題”は「山ノ内子ども風土記」であった。原稿の締め切りまで約一ヶ月半。北鎌倉に越してまだ、5年目。古くから暮らしている皆さんのように、この土地のことをよくは知らないのに果たして「できるかなあ」という思いが正直なところあった。それから間もなく、「風土記編集チーム」が広報担当理事である和泉先生のお宅に集まり初回の打ち合わせとなった。皆さん其々、資料を持ち寄っての編集会議となったが、私は皆さんのお話を伺うのが精一杯であった。もちろん郷土史家などではない私は、改めて「風土記」というテーマの難易度の高さを実感した次第である。しかし、テーマは“子ども”風土記である。郷土史の素人に「風土記」は難しいが、「子ども」のことは書けそうである。昔の子どもたちが、北鎌倉に遊び、育まれたその時代、其処に在った景色を描くことで、何かを伝えられるのではないかと思った。苦し紛れであったかも知れなかった。「古くからいらっしゃる方に昔の子どもたちの遊びや当時の北鎌倉のことを聞いてみませんか」というのが、初回の編集会議での私の発言らしい発言であった。「それならAさんしかいない」ということになり、皆さんとご一緒にAさんのお宅を訪問した。まだ、激しい暑さが続いていた頃のことである。Aさんにテーマは「山ノ内子ども風土記」とあると伝えると「台のことなら話せるが、山ノ内は………」とのご返事であった。少し参ったが、ともかく昔の子どもたちの話を聞かせてほしいということだけは伝えた。そして、「台のことなら、」ということで、3時間が、まさに「アッ」という間に過ぎた。かようにして、「山ノ内子ども風土記」は「台峯(だいみね)子ども風土記」となった次第である。

その後、2度、原稿の確認などのためにAさんのお宅を訪問し、お話をうかがったが、最初に訪問した時から、Aさんの撮影した古い写真を集めたファイルの背表紙に記された「ふるさと」というタイトルが何故か気になった。そして、「ふるさと」というタイトルに込めたAさんの思いを感じとれた様な気がした。昔の懐かしい写真の数々と共に、壊されてしまった「ふるさと」の写真もそこにはあった。

□六国見山の麓に残されていた「ふるさと」

一昨年の秋、私の娘が幼稚園の園外保育で、初めて六国見山に登ったという話を聞き、同じ秋、私も久しぶりに長窪地区の登山口から登った。山頂からの眺めもさることながら、高

野台の住宅地の長い坂を過ぎると広がっていたあの畑地の広がる景色が好きであった。台峯とは異なる景観であり、自然環境だが、心地よい気持ちにさせてくれる場所であった。昨年の春、其処で娘と一緒に最後の山桜を眺めた。台峯の次に私の娘が見つけた「ふるさとの景色」を一緒に眺めた。小学生になる前の春休みに私と一緒に眺めた景色を多分、彼女は忘れないでいてくれると思う。しかし、彼女が一年生になったその年に、彼女が眺めた「ふるさと」は壊された。再び、娘と一緒に其処に行ったのは、昨年の秋である。工事は破壊（開発）から不粋な創造（造成）の段階に移りつつあった。現場の中に設けられた登山口までの埃っぽい道を歩きながら、写真を撮影していた私を彼女は、何時になく「早く六国見、登ろうよ」と急かした。何れ、其処に新しい街ができる。しかし、あの山桜は二度と咲かない。確かなことは、彼女と私が見つけた、一緒に眺めた「ふるさとの景色」が壊されたということである。

□もうひとつのキーワード

「此の頃の子どもは虫も触れないし、草の名前を知らないからみんな草になっちゃう」と A さんが話していたが、まさに私の娘がそうである。そのオヤジも毎月、山歩きに参加し、台峯を壊されたくないとの思い入れはあるのだが、東京に生まれ「ふるさと」の体験は乏しく、先回の山歩きの時も「ほらすズメだよ」と娘に言ったところをナチュラルリストの久保さんにさり気なく「アオジ」と教えられる始末だが、たとえ、恥をかきながらも鳥や草木、花、生きものには其々、名前があり、其々がその世界に存在している意味があることを教えられればと考えている。台峯の谷戸に残された「ふるさと」の空間、其処は、様々な生きものが棲息する世界、其処に生きる其々の命の存在が、子どもたちに、様々なことをまさに自然に学ばせ、子どもたちを育てる。北鎌倉に僅かに残された「貴重な生態系」という理由の他に台峯、倉久保谷戸の風景が、絶えることのない時間の移り変わりの中に残され、失われてはならないもうひとつの訳をこの機関紙誌の編集に係わり知った。

先日、校正紙が届いた。A さんのお宅を再び訪問し、ご覧戴いた。A さんのお宅から戻り、校正紙を改めて読んだ。東慶寺 井上禪定師、北鎌倉女子学園 宮澤文恵先生のほかに寄稿戴いた北鎌倉に所録の皆様も「ふるさと」のことを記されていた。『北鎌倉の風』第4号のもうひとつのキーワードは A さんのファイルの背表紙に記された「ふるさと」であったのではないか、勝手ながらそんな思いに辿り着いた次第である。さて、郷土史に詳しい方からは「風土記」については、「空見出（からみだし）」とのお叱りを受けるかも知れないが、素人の愚戯ということで大目にご覧願いたい。

何れにせよ、A さんのお話と写真がなければ、「台峯（だいみね）子ども風土記」は、つくれなかった。昔の子どもたちが、山に遊び、育てられた時代とその世界、そして A さんの台峯への思い、それを十分に伝えることが出来たかについては、『北鎌倉の風』第4号をぜひ、ご覧願ひ、評価いただければと思う次第である。（了）

伝言板

◇機関誌「北鎌倉の風」で台峯体験を！

伝えたい、かけがえのない生き物たちの宝庫を
各500円でお分けしています。

見る！



読む！



第4号「命育む台峯にあそび、まなぶ」間もなく出版へ！

【メンバー構成】(2002年10月現在)

- ▽理事長 なた いなた 副理事長 石黒ひで 常任理事 森泉定男
▽理事 新植幸子 和泉あき 小田原茂夫 小林京子 齋藤博子 榎原一郎 野口
稔 望月晶夫 望月眞樹
▽監事 吉野功 林雄一郎
▽正会員 理事会メンバー 石原瑞穂 市川節子 岩瀬豊治 上田隆一郎 塩原純子
平尾光司 吉野功 渡辺利勝 榎本晶夫 中村光夫 長島豊

【定例行事】

「なた いなたと北鎌倉周辺をあるく」

毎月第3日曜日午前9時に北鎌倉・東慶寺手前の山ノ内公会堂に集合、主に台峯から鎌倉中央公園まで、鎌倉自主探鳥会のメンバーの案内で歩きます。

解散は正午頃。雨の日はフリートーク。

新規会員募集中！

一般年会費 2000円です。詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

【ホームページ】 URL:<http://www.kitakamakura-trust.org/>

発行日…2003年3月1日

発行者…NPO法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局…〒247-0062 鎌倉市山ノ内1045

TEL/FAX 0467-22-7993